

## 「平成 21 年度 第 2 回真名川ダム弾力的管理検討委員会」 議事概要

○日時：平成 21 年 12 月 17 日（木）14 時～16 時

○場所：多田記念大野有終会館 1 階 106 号室

### ○議事内容

#### （1）調査結果報告

- ・魚類調査結果（H21.9）
- ・地下水位観測結果

#### （2）H22 年弾力的管理試験実施計画

- ・フラッシュ放流試験計画
- ・置土計画
- ・自然再生試験計画

について事務局から説明

主な質疑応答、意見の内容は、以下のとおりである。

### ■魚類調査結果について

（委員）

- ・H19 年掘削水路では本川に比べて個体サイズが小さいものが多いという結果になっているが、水深や流速の差異に関する情報は何かあるか？

（事務局）

- ・H19 年掘削水路は本川に比べて水深が浅いという特徴がある。

（委員）

- ・河川水辺の国勢調査と比べて底生魚が少ないのは調査方法の違いが影響していないか？
- ・河川水辺の国勢調査の五条方地点でカジカが確認されており、真名川上流はきれいな水だと思われる。今回調査で確認されないのは調査位置や方法のせいかもしれない。

（事務局）

- ・河川水辺の国勢調査に準じて調査しており、調査方法での違いはないと考えられる。

（委員）

- ・フラッシュ放流が魚類やその生息環境に与える影響を把握するにはフラッシュ放流前後で比較する必要がある。また付着藻類や水際植生等、生態系全体としてフラッシュ放流の影響を把握する必要がある。

（事務局）

- ・フラッシュ放流時の調査内容については次回委員会に諮る予定である。

### ■地下水位観測結果について

（委員）

- ・フラッシュ放流で水位が上がれば連動して堤内地の地下水も動き、また、県の浚渫工事

で水面が広がったことが影響するかと期待したが、この結果から判断するのは難しい。

・地下水位が月毎に変動している理由は何か？ また、フラッシュ放流との関係はどのようになっているのか？

(事務局)

・今年は洪水がなくほとんどダムから放流をしていないので真名川の流量の変化が小さく、河川流量の影響を受ける堤外地の地下水位はあまり変動していない。にもかかわらず堤外地や下五条方の地下水位は変動しており、真名川以外の要因が影響していると考えられる。今後も継続的にデータを取って変化をみていきたいと考えている。

・地下水位の変動には、降雨や田面などの農業用水からの供給など複数の要因があり、このデータから月毎の地下水位の変動を説明するのは難しい。また、昨年のフラッシュ放流時の地下水位との関係は、フラッシュ放流後に降雨が重なったため、どちらが要因なのかよくわからない。

(委員)

・真名川の流量が増えることや掘削水路により水面幅が増えることで地下水にどのような影響を与えるのかを把握するためには、どのように地下水を測れば良いのか、現在の観測で良いのかを見極めることが重要であるが、現在のデータではまだよく分からない。

#### ■フラッシュ放流試験計画について

(委員)

・放流量  $70\text{m}^3/\text{s}$  は今後フラッシュ放流量をさらに増やす為のステップと考える。

(委員)

・フラッシュ放流試験を予定している 4 月 14 日の下荒井堰堤はどういう状況になるか？ 融雪期に真名川に  $75\text{m}^3/\text{s}$  の流量があると下荒井堰を越流する可能性がある。越流した時の安全対策はどうするのか？ 下荒井堰下流の流量を人工的に増水させた時の下流漁業関係者への対応はどうするのか？ また、融雪時には発電は最大出力状態だがフラッシュ放流時の電気事業者の対応をどう考えているのか？

・どういう調整が可能か九頭竜川本川に対するケアは今までより大事である。

(事務局)

・過去のデータでは、4 月 14 日頃はほとんどの年でフラッシュ放流をしなくてもすでに下荒井堰堤を越流している状況である。積雪状況等もう少し先にならないと融雪の見込みの見極めができないが、フラッシュ放流前にすでに下荒井堰堤が越流している場合はフラッシュ放流による影響は小さいと考えられるし、また、九頭竜本川系の発電流量をフラッシュ放流時に一時的に減らすことで下荒井地点での流量変動を小さくできないかについて発電事業者と調整することも必要と考えており、今後発電事業者と情報や意見交換をして対応したうえで考えていきたい。これまでの  $50\text{m}^3/\text{s}$  のフラッシュ放流試験では影響が大きいのは大野市漁協の範囲だけであったが、流量が増えることから大野市漁協を通じて中部漁協にも話をしていただくようお願いしている。どの程度増えるかは融雪状況や発電

との調整もあるので、現時点でははっきりしない。

(委員)

・下荒井堰堤の発電使用水量は最大 80m<sup>3</sup>/s であり、そのうち九頭竜川本川の流量が結構な量となっている。フラッシュ放流の流量増加の波形によっては急激な放流をすることになるので、安全な放流の為には勝山市にも知らせておくことが必要ではないか？

(事務局)

・フラッシュ放流の波形については、終了が遅くなるという問題はあるが、立ち上がりを緩やかにすることも検討したい。勝山については、フラッシュ放流時の本川の流況や発電事業者との調整によっては下荒井堰堤下流の流量があまり増えない可能性もあるので、そのあたりを見極めた上で調整したい。

(委員)

・フラッシュ放流の実施を一般の方に知らせたり PR しているか？ 今後流量が大きくなると住民の関心度が増す。また、利害関係が現れる可能性もある。事前に知らせた方が良い。

・地元の人にも関心を持ってもらうことは教育的にも良い。フラッシュ放流の様子を見に来てもらうのが一番良い。

(事務局)

・これまでも事前に記者発表し、フラッシュ放流当日は放流警報をしている。今回早めに日程が決まれば、大野市の広報に掲載してもらえるとと思うので調整したい。

#### ■置土計画について

(委員)

・真名川ダムができたことにより治水効果はあがったが、浮石の埋没や細かい土砂の堆積が発生している。置土を行うことによる川底の変化を確認するため淵調査は必要と思う。

・これまでの放流量 45m<sup>3</sup>/s では堆積に対してはあまり効果が無かった。70m<sup>3</sup>/s よりさらに大きく 100m<sup>3</sup>/s 以上の放流にして欲しい。置土はどうしても必要なのか？

(委員)

・置土をせずフラッシュ放流だけだと河床の砂がかき出されるばかりで河川環境に対してマイナス面が拡大するかもしれないため置土も必要である。

・他の河川では置土量は多いところではダム堆砂量の 10%程度であるが真名川では 0.5% であり量としては少ない。フラッシュ放流に見合った置土を流し、良いところ悪いところを知るためにはどういう調査をすれば良いか考える必要がある。

#### ■自然再生試験計画について

(委員)

・ワンドの創出をすることは大変良い。フラッシュ放流も自然再生の一部である。

・川をよみがえらせるには植物（生産者）を把握すべきであり、付着藻類は川の生き物全

体に影響する。これまでのフラッシュ放流時の付着藻類の調査結果についても教えて欲しい。

■その他

(委員)

- ・福井県による H22 年度の真名川の伐採・浚渫等の予定はどのようになっているか？

(福井県奥越土木事務所)

- ・まだわからないが、実施したいと考えている。

(事務局)

- ・次回の第 3 回委員会は H22 年 2 月 18 日 14:00～と仮予定する。

以上